

項目	取組状況
教育	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 平成 28 年度担当科目 <ul style="list-style-type: none"> ・総合工学実験実習Ⅱ（2 年通年），建築計画（3 年通年），建築造形実習（3 年前期），基礎研究（4 年通年），卒業研究（5 年通年），工学システム実験実習（専攻科 2 年通年），工学システム設計演習Ⅱ（専攻科 2 年通年） ◆ 担当科目の取組状況（工夫・改善した点） <ul style="list-style-type: none"> ・学習意欲を向上させるための多角的な取組み（建築スケッチ方式の講義ノート、ネームラベルによる採点・評価、タブレットを利用したプレゼン、討論スタイルのグループ学習）を行った。 ◆ 特記すべき教育方法の実践例 <ul style="list-style-type: none"> ・建築スケッチ方式の講義ノート：「建築計画」（とくに建築史の範囲）において、毎回の講義ごとに回収・採点・返却（次回講義の開始時）をするための配布プリントのことである。とくに建築史の範囲では、文章的な意味のみならず、歴史的な建築物や都市計画を、ビジュアルなイメージとともに理解させなければならない。そこでこの講義では、教科書主体の講義を展開しながらも重要なイメージを講義ノートにスケッチする方式を取っている。 ・「基礎研究」「卒業研究」において、学習意欲を向上させるとともに、学生のファシリテーション能力を高める機会を創り出す手段の一つとして、討論スタイルのグループ学習としてブレインストーミングと KJ 法を取り入れている。複数の教員で受け持つ科目で使用する場合には、他の教員とファシリテーション技術（例えば、学生への関わり方、指示の出し方、意見抽出におけるアドバイスの仕方など）を統一する必要があるため、こまめに教員間連携を図っている。 ◆ 校長顕彰などの受賞 <ul style="list-style-type: none"> ・学生とともに取り組んだ市民水防活動に基づく「浸水歩行体験キット」の開発及び寝屋川市の地域貢献に寄与しうる一連の取組みが評価され、本校の校長顕彰実施要領第二条第一号（2）号の表彰を受けた（平成 28 年度）。
研究	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 平成 26～28 年度における研究業績 <ul style="list-style-type: none"> ■ 学術論文執筆 <ul style="list-style-type: none"> ・馬屋原敦，赤木徹也，鯉坂誠之，鈴木弘樹：高速道路サービスエリアにおける「休憩の質」向上に関する環境評価指標の提案，日本建築学会技術報告集，第 22 巻，52 号，pp.1091-1096，2016.10 ・赤木徹也，鯉坂誠之：都市空間の概念化に及ぼす期待効果の影響，認知言語学的アプローチに基づく都市空間の概念化に関する基礎的研究その 2，日本建築学会計画系論文集，第 81 巻，727 号，pp.1895-1903，2016.9 ・赤木徹也，鯉坂誠之：認知症高齢者の「その人らしさ」に基づく施設個室環境の概念化，日本建築学会計画系論文集，第 79 巻，697 号，pp.617-624，2014.3 他 3 件 ■ 国際会議での発表 <ul style="list-style-type: none"> ・Kunihiko Kashiwagi, Testuya Akagi, Shigeyuki Ajisaka : Conceptualizing the environment of private room based on “personhood” of elderly with dementia in group care unit, Proceedings of IAPS, Timisoara, Romania, pp.361-362, 2014.6

	<ul style="list-style-type: none"> • Atsushi Umayahara, Tetsuya Akagi, Shigeyuki Ajisaka : The validity of environmental assessment items for the “quality of rest” provided, Proceedings of IAPS, Timisoara, Romania, pp.326-327, 2014.6 ■ 学術講演会での発表 <ul style="list-style-type: none"> • 鯨坂誠之, 池田友美, 郷間英世他 : 介護スタッフから見た障害者のケア環境支援につながるコミュニティ・カフェの在り方, 日本重症心身障害学会, 第 41 巻, 2 号, P-2-G03, p318, 2016.9 • 鯨坂誠之 : 間伐材を利用した森林の環境整備に関する研究 その 2, 親水スペースに求められる知覚的要因, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 5431, pp.873-874, 2016.8 • 鯨坂誠之 : 間伐材を利用した森林の環境整備に関する研究 その 1, 現地実態に応じた地域のニーズ抽出, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 5462, pp.923-924, 2015.9 他 4 件 ◆ 平成 26～28 年度における外部資金獲得状況 <ul style="list-style-type: none"> • 鯨坂誠之, 吉田広美 : 地域コミュニティから見た「障がい者のケア環境」の空間的整備に関する研究, 研究助成, (株) オールケアライフ, 2016.4～2017.3 • 赤木徹也, 鈴木弘樹, 鯨坂誠之, 馬屋原敦 : 休憩施設の休憩の質向上のための環境評価指標に関する基礎研究, 共同研究, (株) 高速道路総合技術研究所, 2016.6～2017.2 • 鯨坂誠之 : 観光客の視覚探索特性に基づく「森林の魅力づくり」に関する評価指標の開発, 校長奨励研究, 大阪府立大学工業高等専門学校, 2014.4～2015.3 他 2 件 ◆ 学会などでの受賞 <ul style="list-style-type: none"> • いい川・いい川づくり WS , 入賞 (全国 4 位), NPO 全国水環境交流会 (国交省, 農林水産省後援), 2016.9 • 笑働の森プロジェクト : WoodDesign 賞 2015, ソーシャルデザイン部門, 入賞, 林野庁・庁内協議会, 2015.12
<p>社会貢献</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 平成 26～28 年度における学会などでの委員 <ul style="list-style-type: none"> • 寝屋川市環境保全審議会, 委員 (副会長), 大阪府寝屋川市, 2015.4～現在 • 大阪府アドプトロードプログラム「アドプトロード榎尾山」「アドプトリバー榎尾川」, アドプト会員, 大阪府都市整備部鳳土木事務所, 2013.10～現在 他 2 件 ◆ 特記すべき社会貢献の内容 <ul style="list-style-type: none"> • 大阪府アドプトロードプログラム : 当該プログラムは、大阪府が管理する道路や河川等の一定区間において、地元自治会や団体が、自主的に清掃や緑化等のボランティア活動を実施する場合に大阪府と関係市町村が支援し、三者が協力して地域に愛されるきれいな道路環境づくりや地域の環境美化に取り組むことを目的としている。本校は、和泉市榎尾山の入山から青少年センターまでの区間における環境美化に取り組む「アドプト・ロード・榎尾山」「アドプロ・リバー・榎尾山」の認定を受けている。また、この一環で行われている「笑働の森プロジェクト」における学生の自主的な森林の保全・再生とまちづくり活動が高く評価され、大阪府都市整備部鳳事務所から本校学生に対し、感謝状が贈られている (平成 25 年度～平成 28 年度)。